

第8章 計画の達成状況の評価

Ⅰ 評価指標及び数値目標

本計画における計画目標に対する施策の進捗状況を明確にするため、目安となる評価指標と目標値を設定する。目標値は、現況値に対する目標として設定し、計画期間に合わせ、令和 7(2025)年度とする。

【計画目標Ⅰ】
だれもが快適に移動できる地域公共交通体系の実現

- 方向性① 公共交通空白地区の改善に向けた生活道路の整備や新たな公共交通の段階的な導入
- 方向性② 総合的な交通情報案内サービスの提供
- 方向性③ 定時性、速達性、安全性を高める通行環境の整備
- 方向性④ 朝霞台駅のエレベーター設置等の交通結節点のバリアフリーの強化
- 方向性⑤ シェアサイクル等を活用した細かい移動ツールの提供

【計画目標Ⅱ】
市民・行政・交通事業者等と一体となった持続可能な地域公共交通の実現

- 方向性⑥ 路線バスの確保・維持
- 方向性⑦ 市内循環バスの運行計画や弾力的な運行体制の見直し
- 方向性⑧ バス待ち環境の充実
- 方向性⑨ 運転手の確保に向けた対策の実施
- 方向性⑩ バスの利用促進に向けた意識の醸成
- 方向性⑪ 地域が率先して地域公共交通を守り育てる意識の向上
- 方向性⑫ 地域公共交通の持続可能性と公共交通空白地区の改善が両立する評価基準等を定め PDCA サイクルによる運行管理の実施

【令和 7 年度に向けた目標値】

評価指標 1 公共交通空白地区の改善

公共交通空白地区を 3 地区以上改善

評価指標 2 公共交通の利用促進

情報案内のサービス提供取組数
4 つの施策実施

評価指標 3 公共交通に対する満足度の向上

交通の安全性・利便性・マナー
向上の取組の満足度向上
約 44%※⇒約 49%以上
※朝霞市市民意識調査（H26）より

評価指標 4 路線バスの利用促進

路線バスの利用者数増加※
利用者数：約 700 万人/年
⇒約 720 万人/年

評価指標 5 市内循環バスの利用促進

市内循環バスの利用者数増加※
利用者数：約 28 万人/年
⇒約 32 万人/年

評価指標 6 市内循環バスの利用促進

市内循環バスの収支率（運行経費に占める運賃収入の割合）の増加※
収支率：約 23%⇒約 25%

評価指標 7 バスの利用環境の改善

バス停の上屋、ベンチの整備
バス停の整備数を 5 箇所以上

評価指標 8 シェアサイクルの利用促進

シェアサイクルポートの整備
シェアサイクルポート数を
180 箇所とする。

※コロナ禍の影響による利用者数の減少を踏まえ設定。
今後、回復状況を踏まえ、適宜見直す

2 計画の推進体制

本計画の推進にあたっては、朝霞市地域公共交通協議会で毎年、進行管理を行い、計画の実現化を促進する。

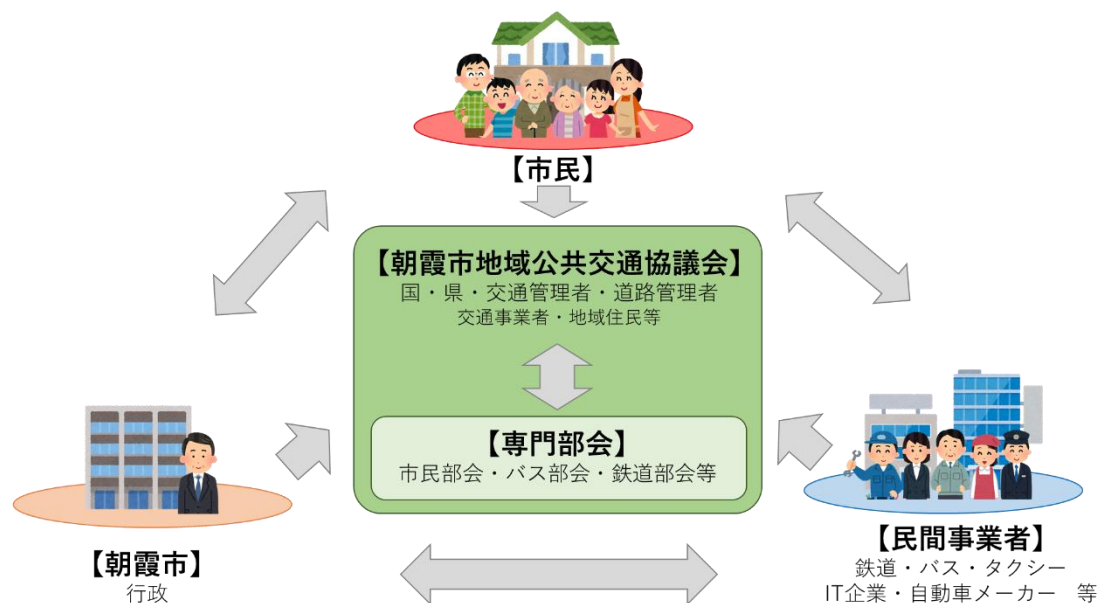


図 28 朝霞市地域公共交通計画の推進に向けた体系イメージ

3 計画進行の管理

本計画の進行にあたっては、定期的に計画期間における目標の達成状況を評価し、毎年朝霞市地域公共交通協議会に報告しつつ、必要に応じて見直し、改善するという PDCA サイクルに基づく評価・検証を行う。

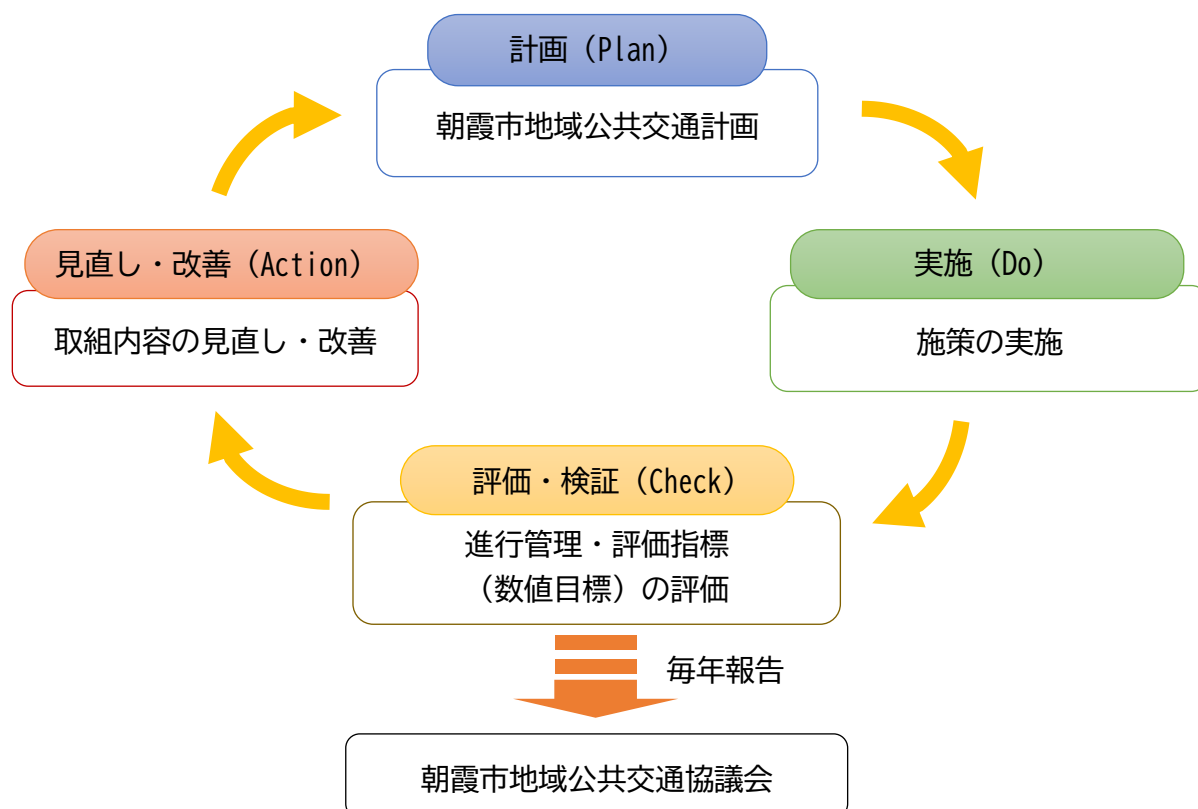


図 29 計画の進行管理イメージ